

関西空港から神戸へ(2)

閑散とした関西空港をあとにして、高速バスで神戸に行くことにした。前にポートアイランドまで船に乗って行ったことがあったが、その海上アクセスは採算面で廃止された。中部空港でも津などと結ぶアクセスが計画されているが、うまくいくのであろうか。鉄道でなくバスにしたのは、阪神高速湾岸線を走るルートなので、大阪湾の臨海部を眺めることができるためだ。神戸三宮まで 70 分のバス旅行である。

なにせ高速で走るバスの車内から写したので、写真の出来は良くないが、堺・泉北臨海工業地帯の現状をカメラにおさめることができた。広大な敷地のコンビナート沿いに高速道路が造られており、工場風景が長らくつづいた。石油化学工場や新日鉄堺製鉄所なども見ることができたが、なにか閑散とした感じであった。かつてのような活況とは程遠く、臨海工業地帯の再編が進行している。



このコンビナートには思い出がある。大学院の頃、宮本グループの一員として調査に参加したからである。共同研究の成果は『大都市とコンビナート・大阪』として刊行されている。私は修士論文に追われており執筆には加わっていないが、事務局の一員として奮闘した。あれから 30 年近く経って、車窓から眺めたコンビナートは感慨深いものがある。



神戸に近づくにしたがい、景色は様変わりしてくる。工場地帯から住宅地帯へと移って、都市の風景がつづくようになる。高層マンションが臨海部に広がり、六甲山の上の方まで開発の手が伸びている。

時間通りに三宮に着いた。写真を撮りつづけていたので疲れたが、ただちに市役所の展望室に向かった。ここから街並みが一望できる。あの震災 1 ヶ月後に見た風景から一変して、高層ビルが立ち並んでいた。人通りも多く、華やかな感じであった。震災から 9 年近く経過して、本当に神戸は復興したのであろうか。もう一度、長田区の方にも出かけてみたいと思う。



駆け足の旅であったが、いろいろと考えさせられることが多い一日であった。

(11 月 27 日記)